

や自然環境, 社会環境などの違いを考えれば効果的な研修と考える。また研修生にとっても得るところが大きいのではないだろうか。

### おわりに

ボリビアの林業と植林活動ということで本文を執筆したが, ボリビアに滞在して8か月あまり(1988年10月現在), 国内をそれほど熟知しているとは言いがたい。また, 資料も地方では得がたく, JICA 事務所をお願いして得ることが出来た。任期は, 残り一年少々, 自分の任地だけでなく他の地域(特に熱帯雨林地域)へも足を伸ばし, これらの地域を見てみたいと思う。本稿では, 十分でなかった点, また新しい事項等発見見聞きできれば, またの機会に報告したいと思う。

[参考文献] 1) Parques Nacionales de Bolivia (1986). 2) Servicio Nacional de Meteorología. 3) Camara Nacional Forestal (CNF) (1986). 4) Lineamientos y proyecciones para una nueva política forestal en Bolivia (1987). 5) JUNTA del Acuerdo de Cartagena (1987).

---

## 新刊紹介

◎スラウェシの生態学 (WHITTEN, A.J., MUSTAFA, M. and HENDERSON, G.S. : The Ecology of Sulawesi. Gadjah Mada Univ. Press, Yogyakarta, xxi + 777 pp., 1987. 現地価格で約2,500円)

本書はインドネシアのスマトラ島に関し主として生態学的側面から記述された「スマトラの生態学」(1984年刊)に続く“インドネシアについての生態学シリーズ”ともいうべきものの第二弾である。前書と同じようにカナダからの研究者と地元の実験者との協同作業による成果で, 既存の文献(1,400篇以上が引用されているが, これらがすべてスラウェシを対象としているとは限らない)を参照するだけでなく, 多くの未発表データを取り入れている。

全体は11章から成り, まずスラウェシ(旧セレベス島)の地理, 気候, 植生等々といった一般的な記述, 次に第2~8章におもな生態系(海浜, 低地林, 山岳, 洞穴等々)ごとの記述があり, “農業生態系”, “都市生態学”, “資源と未来”と続いている。各章の記述のされ方には必ずしも統一性があるとはいえず, といって内容が網羅的というわけでもない。現時点で入手しうるデータがいささか雑然と提示されているという感が否めないが, これはこのような書物の性格上いたしかたのないことだと思われる。ともかくスラウェシに関する生物学に興味をもつ人々には貴重な一冊といえよう。(小久保 醇)